

# 成長と共に

お客様の生活全般を把握することで本当に必要とされる製品やサービスを提供する「ライフ・イン」と、末永く「安心」「安全」にご使用いただくことで、お客様との信頼関係を築いていく「ライフロング・パートナーシップ」。事業の根幹に息づくこの二つのコンセプトを継承し、お客様の暮らしに「安心」「安全」を提供する使命と役割を果たしていきます。

- 1 BXカネシン  
「2018年度グッドデザイン賞」授賞式
- 2 CAMBUILD 2018 (カンボジア)
- 3 2018防災産業展 in 東京
- 4 施工研修



# お客様の満足を追求

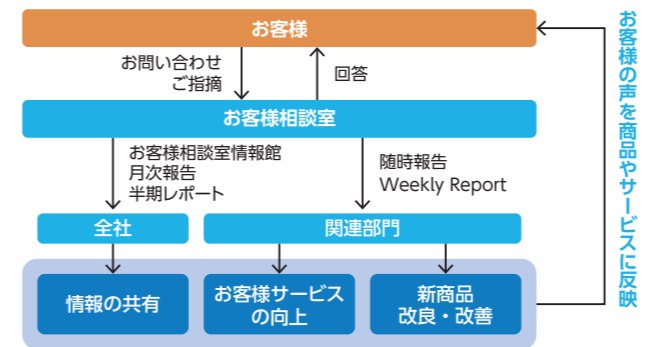
## ● お客様相談室の取り組み ●

### お客様相談室の方針

BXグループでは、お客様の要求品質を満足させるため、企画、開発、営業、設計、購買、製造、施工、メンテナンス各部門の品質を向上させるよう、グループ全体としての品質保証体制を構築しています。

お客様相談室では、お客様から電話やメール等でいただいたお問い合わせ（要求品質）を正確に把握し、適切、迅速そして誠実に対応する体制を構築し、運用しています。

### お客様対応の流れ

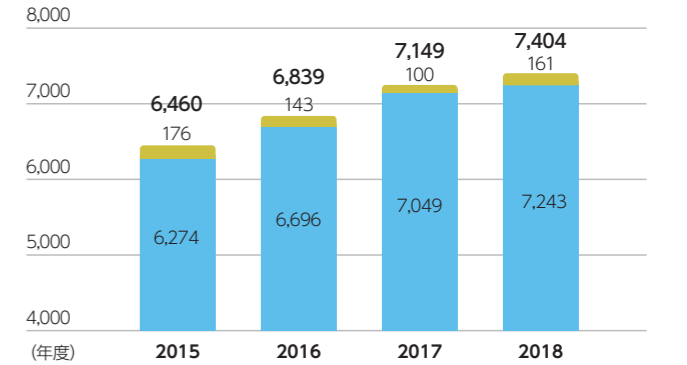


## お客様の満足度を向上する取り組み

日々の夕礼を通して、一日の問い合わせ対応を報告し合います。お互いが気づかなかったことを確認し、応対力や商品知識の向上に努めています。

また、お客様対応で集積した情報をもとに、従業員向けの商品FAQ（よくある質問）サイトを立ち上げました。これにより、従業員はいつでも商品に関する問い合わせを検索できる環境となり、従業員の業務効率の向上とお客様対応の品質向上を図っています。

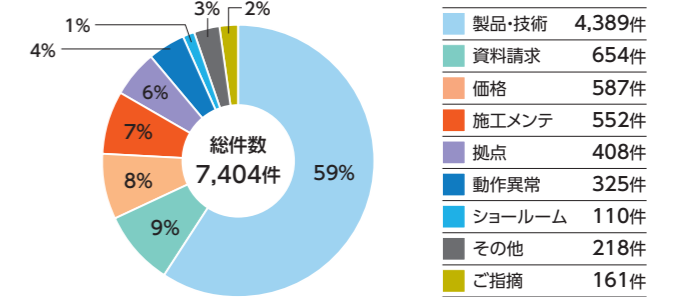
### お問い合わせ件数の推移



## お客様の声を活かした取り組み

お客様からいただいた貴重な情報は、随時関連部門へ配信することで、新商品の開発や商品・サービスの改良・改善、ホームページやカタログ等のリニューアルに活かし、お客様満足の向上につなげています。特に重要な情報は、「Weekly Report」として関係部門に直接配信し、早期の検討・対応による品質向上に努めています。また、社内のポータルサイトには「お客様相談室情報館」を設置し、月次報告や半期レポートでお客様の声やお問い合わせの事例を取り上げ、全従業員がいつでも閲覧、検索できるようにしています。

### 2018年度のお問い合わせ件数とその内訳



### 2018年度の主な取り組みと評価 (○ 目標達成 △ 要改善)

**お客様の満足を追求**

- お客様相談室の取り組み
- 施工力の革新

**グループの成長・発展**

- 森林保全に貢献するBXカネシン「LC-core構法」
- エコ事業強化に向けたグループの拡大

**誠実な企業経営**

**コーポレート・ガバナンス**

- ガバナンスの強化
- 監査等委員会による監査・内部監査の実施
- コンプライアンスの強化

**リスクマネジメント**

- 製品事故・品質異常の対応
- CSR調達に関するガイドライン
- 製品の安定供給
- 情報セキュリティ

### 重点課題 (マテリアリティ)

### 貢献するSDGs目標

**G (ガバナンス)**

- コーポレート・ガバナンスの推進
- リスクマネジメント
- 多様なステークホルダーとの対話
- 「エコと防災」事業の推進
- 技術力・施工力の強化

### コンプライアンス教育

2018年度のe-ラーニング受講率

100%

### 防火設備検査員

有資格者数

1,981名

### お客様相談室

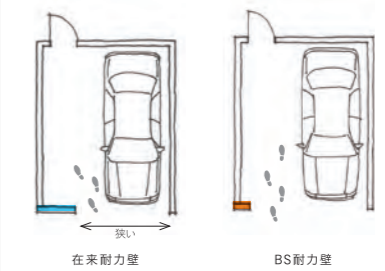
2018年度のお問い合わせ件数

7,404件

### BXカネシン 2018年度グッドデザイン賞受賞 「ベースセッター」

BXカネシンの柱脚金物「ベースセッター」が、2018年度グッドデザイン賞を受賞しました。狭小地の木造住宅設計では、耐震性を確保するために必要とされる「耐力壁」が多くなり、開放的な間口や空間づくりが難しくされています。「ベースセッター」は、狭い幅で優れた耐震性を発揮、大きな窓や広いスペースのガレージが実現できます。鉄骨造が多い店舗や保育園、高齢者施設等も「ベースセッター」により木造化しやすく、再生可能な資源の活用にもつながります。審査員からは「この種の耐力壁は従来は門型フレームの一部として実現されていたが、単独で成立することにより配置の自由度が高まり、制約の大きい狭小敷地の住宅に特に効果的である」との高評価をいただきました。

WEB BXカネシン > 製品情報 > ベースセッター



お客様の満足を追求

● 施工力の革新 ●

設計施工における理念と行動の制定

文化シャッターでは設計施工分野において社是・経営理念を実現するために、従業員の価値共有を目的として「文化シャッター 設計施工 理念と行動」を新たに制定しました。これは日々働く意義を明確に示す道標であり、お客様に最も近い位置にいる技術者としてBXブランドの価値を高める心構えを記したものです。設計施工が主体性を発揮し、知恵と技術を結集させることで、快適環境に最善の価値を提供し続けることをめざしています。

施工力の強化

文化シャッターでは施工力の強化を図るために、施工協力会社から希望者を募り、結城研修所と姫路研修所でさまざまな技術教育を実施しています。これまでに約300名の施工協力会社従業員向け、コンプライアンス意識の向上をはじめ、高い施工品質の維持・向上をめざした教育を行いました。建築現場での施工には危険が伴うため、現場の基礎ルールから必要な特別教育（職長教育、低圧電路、アーク溶接等）、製品の取付など、施工協力会社が安心して安全に作業ができるよう、独自の教育プログラムを構築しています。

また、施工員がスマートフォンで製品の取付説明書を確認できる環境を整え、施工品質の平準化に向けた取り組みも進めています。

設計施工 理念と行動

基本理念

知恵と技術を結集し、空間に最善の価値を提供し続ける  
品質・納期・コストを司り、お客様から感謝して頂く喜びを分かち合う  
ともに働く仲間と研鑽を重ね、未来への可能性に挑み続ける

行動指針

1. 知らないことを知ることは楽しいこと
2. お互いに成長することは嬉しいこと
3. ものごとをやり遂げるは面白いこと
4. 培った技術を伝えることは誇らしいこと、受け継ぐことは尊いこと
5. 今を変えることは明日をつくりだすこと

安全宣言

- 私たちは、設計施工に携わる全ての人々が自宅を出て無事に帰宅できるように安全第一で行動します
- 私たちは、手掛ける商品がお客様に安心・安全を提供する使命を持つことを胸に刻み行動します

グループの成長・発展

● 森林保全に貢献するBXカネシン「LC-core構法」●

戦後植樹された木は現在需要期を迎え、豊富な資源となっていますが、国産木材の需要は低く、森林の荒廃や地場産業の衰退の原因となっています。

2010年の木材利用促進法施行により、木造建築の可能性が高まる中、CLT※という新たな木質新建材が注目され、実用化に向けて法整備が進められています。しかし、CLT工法は壁を多く配置する必要があり、開放性が制限されるなどの課題がありました。BXカネシンでは住宅会社や大学、設計事務所などとのプロジェクトに参加し、専用金物を使用した「LC-core構法」を開発。少ない壁で開放性の高いデザインが可能となり、国産木材使用の領域を広げました。CLTの特徴を活かした「LC-core構法」の普及に貢献することで、国産木材が資源として活用され、地域に還元されることを期待しています。

※ CLT Cross Laminated Timberの略称で、ひき板（ラミナ）を並べたのち、繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料。建築の構造材のほか、土木用材、家具などにも使用されています。

参考：政府広報オンライン「木材を使用して、元気な森林を取り戻そう！」  
<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201310/3.html>



「LC-core構法」  
施工現場



from STAKEHOLDER

窪田 健太郎 様

4年ほど前にCLTと出会い、国内林業の衰退と循環型社会について学んだことがきっかけとなり、CLTを利用した住宅販売を行ってきました。2016年にはCLTの性能をより発揮できる中・大規模建築事業に参入し、同年9月に産学連携の「CLT工法に関する技術研究」プロジェクトを発足しました。コストが高く建築実績の少なかったCLTの普及に努めると共に、オリジナル構法の研究に着手、2018年、高耐力の「LC-core構法」が完成しました。木質の中・大規模建築の増加が木質建築市場の拡大につながることを期待し、循環型社会の早期実現に向け今後も研究を続けていきます。



ライフデザイン・カバヤ株式会社 専務取締役

● エコ事業強化に向けたグループの拡大 ●

環境に配慮した技術の開発・革新は重点課題の一つです。木材・プラスチック再生複合材「テクモク」は、建築解体現場や工場などから排出されたリサイクル木質材料と、リサイクルプラスチックを90%以上使用し、高い耐久性と安定した品質、天然木に近い手触りを併せ持つBXグループの資源循環型の主力製品です。当社グループではエコ事業のさらなる発展、拡充をめざし、「テクモク」の原材料を生産する（株）エコウッドの株式の一部を保有し、新たにグループ会社としました。エコウッドは環境事業の最先端エリアである北九州エコタウンで事業を営み、「燃やさない」「埋めない」「捨てない」という循環型ライフサイクルを推進することで新しい形の「地産地消」を提案してきました。今後連携を強化し、高い技術力とシナジー効果で持続可能な資源循環型社会の形成に貢献していきます。



文化シャッターおよびエコウッドは「間伐材マーク」の使用認定を受けています。

※ 間伐材マーク 森林を育てる間伐作業の際に出る「間伐材」を用いた製品であることを証明するマークです。間伐の推進及び間伐材の利用促進等の重要性をPRし、日本の森林保全への貢献を表します。

株式会社エコウッド <http://www.eco-wood.jp/>

2018年度の主な展示会出展

	展示会	出展製品
文化シャッター	2018防災産業展 in 東京	止水製品 防災関連製品
	CAMBUILD 2018 (カンボジア)	ドア関連製品
	MYBUILD 2018 (ミャンマー)	
	VIETBUILD 2018 (ベトナム) (BX BUNKA VIETNAMと Eurowindow社の共同出展)	シャッター関連製品 ドア関連製品
グループ会社	BXテンパル Tokyo Cafe Show 2018 -第6回カフェ・喫茶ショー-	オーニング製品
	BX新生精機 R+T ASIA 2018	障害物感知機能付開閉機 チューブラモーター
	BXカネシン KOREA BUILD 2018	金物工法 制震装置
	BXカネシン Japan Home & Building Show 2018	建築金物



MYBUILD 2018 (ミャンマー)

誠実な企業経営

コーポレート・ガバナンス

● コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方 ●

BXグループのコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方としては、株主や投資家の皆様をはじめとして、お客様、お取引先様、地域社会の皆様などのステークホルダーのご期待にお応えする事業活動を実現するために、さらなる経営の透明性向上の観点から、経営のチェック機能を充実させ、かつ公平性の維持継続を図るため、コーポレート・ガバナンス体制の強化や充実ならびに適時的確な情報公開を行っています。

また国内取引所での上場会社を対象とした「コーポレートガバナンス・コード」が適用されたことに伴い、当社グループは本コードを適切に実践し、持続的な成長による企業価値の向上を図り、ステークホルダーの皆様ひいては経済全体の発展に寄与するという考え方に賛同し、さらなるコーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでいます。

● 取締役会 ●

文化シャッターでは2018年度において、計9回の取締役会を開催しました。法令や定款、取締役会規定をはじめとした内規に基づき、株主総会に関する事項、重要な組織・人事に関する事項、決算に関する事項、重要な財産等に関する事項等の重要事項について決議を行う一方で、経営における責任体制を明確化し、意思決定の迅速化を図る目的から、取締役会決議において各担当役員への権限委譲を行っています。2019年6月現在の当社取締役会は、当社事業に精通し、事業の特性を踏まえた迅速かつ的確な意思決定のできる社内出身者による業務執行取締役9名および独立社外取締役3名を含む監査等委員である取締役4名により構成されています。

● 取締役会の実効性評価 ●

文化シャッターでは取締役会の実効性について全ての取締役に対しアンケートを実施し、その結果を取締役会において報告しています。アンケートでは取締役会の構成や運営、またガバナンスのあり方等を含め、取締役会全体としての役割、責務を概ね実効的に果たしているとの評価に至りました。

各取締役の自己評価結果および意見等を踏まえ、認識された課題の解決や実効性評価項目の見直し等に継続的に取り組むことで、取締役会のさらなる実効性の向上に努めます。

● 社外取締役のスキル・多様性 ●

会社経営の業務執行に対し、中立的・客観的視点によるガバナンス体制を確保するため、豊富な実務経験と幅広い見識を有する社外取締役を選任しています。選任にあたっては、東京証券取引所の定める独立性基準に準拠し、独立性の確保を担保しています。

誠実な企業経営

● 監査等委員会による監査・内部監査の実施 ●

文化シャッターでは、監査等委員会設置会社として、監査等委員である取締役が取締役会における議決権を持つことなどにより、取締役会の監査機能を一層強化しています。当社の監査等委員会は社外監査等委員3名を含む4名の監査等委員で構成されており、経営の透明性確保を目的として、適法性、妥当性の面から取締役の職務執行状況の監査を行っています。監査等委員監査では、取締役会・常務会はもとより、営業・製造に関わる社内重要会議への出席や重要書類閲覧のほか、グループガバナンス体制強化のため、CSR統括部監査室および経営企画部と協働して、海外を含むグループ会社への往査を実施するなど、職務執行の全般を業務監査しています。また、CSR統括部や事業本部業務部が、事業本部、支店、工場、営業所などを対象に計画的な内部監査を実施、内部監査部門および会計監査人と随時情報や意見を交換し合う三様監査の体制を整え、監査が実効的に実施される体制を確保しています。

WEB 文化シャッター > CSR情報 > コーポレート・ガバナンス  
コーポレート・ガバナンス体制図

● コンプライアンスの強化 ●

BXグループでは、法令の遵守はもとより社会規範や企業倫理に基づいた行動を一人ひとりが実践するよう、遵守すべきルールを定めたCSRガイドラインを策定しています。全従業員にはコンプライアンス意識の向上を図る機会として、常時携帯できるコンパクトサイズの「CSR憲章手帳」の配布、e-ラーニングによる学習、社内ポータルサイトで短時間に学べる「こんぷらだより」の定期配信等を行っています。また、各エリアにおいては、集合研修の実施のほか、事業所においても定期的な勉強会を実施できるようテーマごとに教材を提供するなど、組織単位で不正を許さない風土づくりに努めています。2018年度はコンプライアンス浸透に評価基準を設ける「コンプライアンス監査」の導入をめざし、全社的な意識調査を実施しました。この調査結果を研修・教育や評価項目設定の参考とし、さらなる実態調査を進め、組織的にコンプライアンス違反を防ぐための環境づくりを推進しています。

VOICE

BXグループは創業以来、「誠実」を社是の第一の柱に据え、着実な成長を遂げてきました。日本資本主義の父といわれる渋沢栄一も、名著「論語と算盤」の中で、誠実な経営を企業の永続的成長の基本条件としています。現在、当社グループは中期経営計画のもと「社会および環境課題の解決への貢献」をめざし、「進化する快適環境ソリューショングループ」としてシャッター、ドア等の基幹事業とエコ・防災事業等の注力事業を推進しています。これは、長期的な企業価値の向上に向けたESG経営の実践であると共に、国連の定めたSDGsの多くの目標にも沿うものです。目下、明るく風通しの良い社風を活かし、計画達成に全社一丸となって取り組んでいます。働き方改革をはじめ、動きの

激しい社会経済状況において経営者の役割と責任はますます大きくなっています。これに伴い株主共同の利益の確保という目線で経営を監督すべき社外取締役・監査等委員の責務もまた、一段と重くなっているものと自覚しています。その一員である私も、法律専門家としての知見と組織運営の経験を踏まえ、他の社外取締役との連携のもとに、厳正な監査を行うと共に、取締役会においては、取り分けコンプライアンス、内部統制、リスク管理の観点から、忌憚のない質問と意見開陳に努めています。今後も引き続き社長以下執行部門の取締役や従業員との意見交換および現場視察等による幅広い情報収集と実態把握を心掛け、誠実な経営に貢献してまいります。

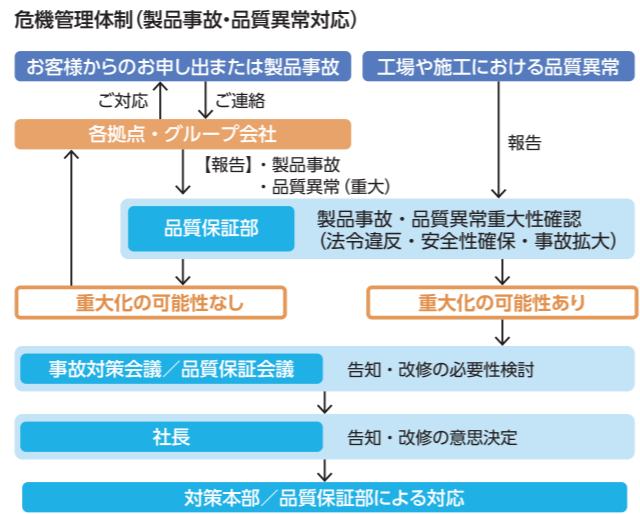


リスクマネジメント

● 製品事故・品質異常の対応 ●

BXグループは、製品事故、品質異常に迅速かつ適切に対応するため、危機管理体制を構築しています。製品事故や重大な品質異常の情報は各拠点を通じて品質保証部に報告され、法令、安全性、事故拡大などの観点から重大化する可能性があるかと判断された場合には、各会議で審議します。

会議では、法令遵守や安全性に主眼をおき、告知や改修の必要性を含めて対応を検討し、社長との協議を経て最終決定を行います。製品事故、品質異常の情報から迅速に原因を究明し対策を講じることで、再発防止を図ると共に、これらの活動を水平展開して改良、改善につなげています。なお、2018年度は重大製品事故の発生はありませんでした。



WEB 文化シャッター > シャッターのお取り扱いについて > シャッターをより安全にお使いいただくために

● CSR調達に関するガイドライン ●

BXグループでは、サプライチェーンマネジメントにおいて、「公正・公平」「地球環境保全」の観点から、CSRへの取り組みに積極的なお取引先様を優先して調達するCSR調達を推進しています。あらゆる購買品の「品質(Q)・コスト(C)・納期(D)」を担保した調達に加え、お取引先様との誠実で良好な関係の構築に取り組んでいます。特に品質(Q)では、「取引先評価表」で当社グループが求める品質基準を明確にし、お取引先様の自己評価とBXグループでの評価を共有することで、強みと弱みを相互認識し、良好な関係性の構築をめざしています。また、定期的に品質監査を行い、共に成長しあう「真のパートナー」として、Win-Winの関係を構築し、リスク管理の徹底に努めています。

- 1. 社会規範の遵守**  
サプライヤーに対して、CSRへの考え方や取り組みに対して共通の認識を持てるよう、定期的な情報発信、指導を実施し、CSR意識の浸透を図っています。
- 2. 購入品に関する品質の確保**  
サプライヤーの品質管理状況を把握するために、定期的に監査を実施することで、調達する原材料や部品、製品の品質の向上と安定を図ります。
- 3. 地球環境保全**  
サプライヤーに対して、ISO14000の取得状況やグリーン購入に関する実態調査を実施します。

● 製品の安定供給 ●

BXグループでは大規模災害の発生を想定し、製品の安定供給を図るため、事業継続計画(BCP/BCM)を策定しマネジメントに取り組むことで、製品の供給責任を果たします。



- 〈通信の確保〉**  
被災状況を迅速かつ詳細に把握するため、各工場に衛星通信機器を設置し、本社を含めた拠点間の連絡体制を構築しています。
- 〈調達BCP〉**  
● **サプライチェーンの二重化**  
原材料については、複数の供給拠点から速やかに代替品が調達できるネットワークを構築しています。また、サプライヤーとさらにその先の生産・供給拠点に関しても、必要な情報を網羅したシステムを構築し、情報の見える化を進めています。  
● **自社での最低在庫の確保**  
主要部品や部材については、東西デポを利用した在庫のバッファ機能により、安定的な供給体制を構築しています。  
● **調達に関するガイドラインの整備**  
各サプライヤーに対し、CSR調達に関するガイドラインを浸透させ、さらなる安定供給の徹底を図ります。
- 自社在庫状況の見える化**  
文化シャッター7工場で購入品の在庫状況を見る化し、情報共有することで、部品・原材料が効率よく供給できるシステムを構築しています。〈製品の供給〉
- 製造システムの対応**  
工場が被災した場合に、他工場への代替生産が可能となるシステムを構築しています。機能の拡充を図り、より円滑な代替生産の実現をめざします。
- 物流体制の構築**  
グループ内の物流網を再構築し、事業間で物流情報を共有することで、被災状況の情報とあわせ、最適なルートを検索や車輛等を確保できる体制を構築していきます。

● 情報セキュリティ ●

BXグループでは、情報資産のセキュリティ確保のため、「電子情報管理規定」および「ハードウェア及びソフトウェア管理規定」を制定し、積極的にセキュリティ保持活動に取り組んでいます。全社のPC機器やUSBメモリ等外部媒体の暗号化、iPad等のモバイル機器の遠隔での情報消去やパスワード強化等の情報漏洩対策を実施しました。また、災害を想定して全てのサーバー機器をデータセンターに集約し、バックアップを含め安全な環境を構築しています。さらに、標的型メール攻撃(マルウェア対策など)の訓練を実施し、従業員のセキュリティ意識の向上に努めています。なお、2018年度はセキュリティに関する重大な事故等の発生はありませんでした。

# 社会と共に

BXグループでは、創業以来、事業活動を通じての社会との関わりを大切にしてきました。「私たちだからできる社会貢献」を念頭に、地域社会にとって最適な活動に取り組み、良き企業市民として積極的に関わっていきます。  
災害被災地での復興支援活動や、地元中学生・高校生を対象とした就業体験の受け入れ、チャリティイベントへの協力など、従業員一人ひとりが「地域のために」の思いを持って、全国にある各事業所が主体となり、各地域に根差した活動に自主的に取り組んでいます。



3



- 1, 2 浅田臨こども読み聞かせ会
- 3 フライングディスク体験教室&アルティメット大会
- 4 第4回BXマルシェ東北うまいものフェア

## 2018年度の主な取り組みと評価 (○ 目標達成 △ 要改善)

### 企業市民としての社会貢献

- スポーツを通じた社会貢献 ○
- 一般社団法人ATHLETE SAVE JAPANとの業務提携契約 ○
- 第6回野口健さんと行く富士山清掃活動 ○

### 人道的社会貢献

- 災害時における初動体制について ○
- 被災地復興支援活動 ○
- 「第4回BXマルシェ東北うまいものフェア」

### 文化活動の支援

- 文化活動を通じた地域社会への貢献 ○

## 重点課題 (マテリアリティ)

### S (社会)

- 地域との共創
- 地域防災と被災地支援の推進
- 文化活動の支援
- 多様なステークホルダーとの連携
- 自主的な環境保全活動

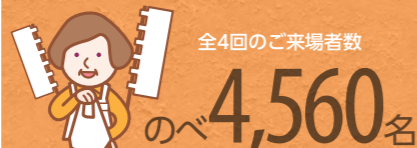
## 貢献するSDGs目標



### 野口健さんと行く富士山清掃活動



### BXマルシェ東北うまいものフェア



### BXホールを提供した子育て支援イベント



# 企業市民としての社会貢献

## ● スポーツを通じた社会貢献 ●

文化シャッターでは、「スポーツ支援を通じ、地域社会の発展と、スポーツを楽しむ子どもたちの夢や希望をサポートする」をモットーにさまざまな取り組みを行っています。

本社を構える文京区を拠点としたサッカークラブチーム「東京ユナイテッドFC」「文京LBレディース」を地域活性化の観点からオフィシャルスポンサーとして応援しています。また、当社が保有するアルティメット※実業団チーム、文化シャッター「Buzz Bullets」は、日本一のチームとして活躍する一方、特別支援学校等において、継続的にフライングディスク教室を開催するなど、選手自らが積極的に貢献活動を実施しています。毎年開催している文京区スポーツ振興課との協働事業「フライングディスク体験教室&アルティメット大会」には、多世代が共に身体を動かす機会として多くの方にご参加いただいています。このような活動により、当社は2016年度より東



神奈川県立伊勢原養護学校でのフライングディスク教室

※ アルティメット フライングディスクを用いた7人制チームスポーツ。

京都スポーツ推進企業として認定されており、今後もスポーツの魅力を通じて多くのコミュニケーションが生まれる地域づくりに貢献していきます。

## from STAKEHOLDER

吉川 洋平 様



Buzz Bullets選手  
神奈川県立瀬谷養護学校  
大和東分教室 教諭

フライングディスク教室は、特別支援学校の児童生徒にとって、スポーツへの参加意欲や運動能力を向上させる効果があります。運動が苦手な生徒でも、誰もが笑顔で取り組むことができるのも、大きな魅力の一つだと思います。トッププレイヤーが直接指導してくれることも生徒の興味・関心を惹きつけかけとなっており、共同学習としても充実した時間となっています。私自身Buzz Bulletsの現役選手ですので、スポーツの魅力を活かした貢献活動にこのような形で携わることができ、大変嬉しく思っています。

## ● 一般社団法人ATHLETE SAVE JAPANとの業務提携契約 ●

文化シャッターでは誰もが安心してスポーツを楽しむ環境づくりをめざし、一般社団法人ATHLETE SAVE JAPAN(以下ASJ)と業務提携契約を締結しました。ASJは「『いのち』を守る、『いのち』を大切にすることをスローガンとし、AED講習「いのちの教室」やスポーツクリニックを全国的に展開することで、アスリートが発信する安心・安全な環境づくりを推進しています。「いのちの教室」は東京都オリンピック・パラリンピック教育支援プログラムにも登録されており、トップアスリートも名前を連ねるASJアスリートアンバサダーの皆様と共に、文化シャッター「Buzz Bullets」の選手も講師として、多くの子どもたちにいのちの大切さを伝える活動を推進していきます。



文京区立誠之小学校での「いのちの教室」

## from STAKEHOLDER

飯沼 誠司 様



一般社団法人  
ATHLETE SAVE JAPAN  
代表理事

ASJではアスリート自身が講師となり、簡易型AED講習会「いのちの教室」と「スポーツ体験」双方の普及活動を全国で実施しています。「スポーツ中の突然死ゼロ」を目標に2018年度は57回の教室を開催、約5,300名が参加しました。シンボルとなるアスリートと共に、行政、学校関係者や企業などに協力を募る中、今回の文化シャッターとのご縁により、さらに活動の幅が広がることを期待しています。来年に迫った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、この活動がレガシーとなるよう、取り組んでいきますので応援よろしくお願いします。

WEB 一般社団法人ATHLETE SAVE JAPAN <http://athlete-save.jp/>

## Buzz Bulletsの戦績

文化シャッター「Buzz Bullets (バズ・バレッツ)」は、2019年7月に開催された第44回文部科学大臣杯全日本アルティメット選手権大会を制覇し、20回目の優勝を飾りました。2018年度の戦績は右表の通りです。

国内試合	クラブジュニア インビテーションアルティメットトーナメント	優勝
国際試合	2018 U.S. Open Club Championships: ICC & YCC	5位
国内試合	アルティメットクラブチームチャンピオンズリーグ2018	優勝
国際試合	2018台湾クラブチーム選手権	優勝
国内試合	2019甲州オープン	優勝
国内試合	DREAM CUP	優勝

WEB 文化シャッター > 企業情報 > スポーツ支援・スポンサー契約 > バズ・バレッツ



第44回文部科学大臣杯全日本アルティメット選手権大会

企業市民としての社会貢献

● 第6回野口健さんと行く富士山清掃活動 ●

BXグループでは、アルピニスト野口健氏の多岐にわたる活動に賛同し、2013年より協賛しています。野口氏は富士山をはじめとする環境問題に取り組む一方、熊本地震発災時にはテント村での避難所運営を実施。その後、避難所のあり方について積極的に啓蒙活動を展開するなど、当社グループの事業テーマ「エコと防災」に思いを共にするステークホルダーの一人です。

当社グループでは野口氏、「認定NPO法人富士山クラブ」と共に産業廃棄物の不法投棄が社会課題となっている富士山樹海エリアを清掃する活動を継続実施しており、これまでにグループ従業員やその家族のべ922名が参加しています。廃棄現場は、細かく粉砕され地中に埋められた廃棄物が数メートル高く積み上げられており、掘り起こしふるいに掛けながら回収する作業は非常に時間がかかります。

第6回目となる活動で回収した廃棄物は約2t。同日に開催された野口氏による環境教室とあわせ、一日を通じて環境問題について改めて考える機会となりました。野口氏との協働による地球環境保全活動は今後も継続し、グループ全体の環境への意識を高めると共に、従業員が一体感をもって日々の環境活動に取り組んでいきます。



第6回富士山清掃活動参加者集合写真

from STAKEHOLDER

大井 英明 様

2013年からスタートした文化シャッターとの富士山清掃も6年目となりました。富士山の美化と自然環境保護に大いに貢献していただき、改めて感謝いたします。富士山は、国内外から、観光客や登山客が訪れる日本屈指の観光地で、ラグビーワールドカップや東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会など国際的なイベントも控え、来訪者が急増しています。当団体としても、実践的な活動の継続はもちろんのこと、ごみの持ち帰りの推奨など、来訪者へ向けた啓蒙活動にも力を入れています。引き続き当団体の活動へのご理解とご協力よろしくお願い致します。



認定特定非営利活動法人 富士山クラブ

野口健公式ウェブサイト <http://www.noguchi-ken.com/>  
認定特定非営利活動法人富士山クラブ <http://www.fujisan.or.jp/>

# 人道的社会貢献

● 文化シャッターサービス 災害時の初動体制 ●

文化シャッターサービスは、全国11支店、129のサービスステーションを配置し、北海道から沖縄までアフターサービス体制を整えています。特に大規模災害発生時には、該当エリアに支援要員をただちに派遣する現場応援体制と、集中する電話回線を他拠点へ転送することで回線のパンクや通話中などのご迷惑を避ける受信体制の両面を整備しています。

2018年8月の台風21号で甚大な被害を受けた関西エリアへは、関西・首都圏・九州エリアから現場応援者を派遣、9月の胆振東部地震で被害を受けた北海道エリアには、東北・関東から現場応援者を派遣するなど、万全の支援体制で対応し、困難な状況のお客様をお待たせすることなく、一刻も早くご安心いただけるよう、対応に尽力しました。

BXグループは創業当初より業界に先駆けてアフターメンテナンス体制を構築、60年を超える歴史の中でお客様に末永く「安心」「安全」にご利用いただく「ライフロング・パートナーシップ」を実践してきました。当社の災害発生時における初動対応は、社是・経営理念のもと、できる限り迅速にお客様のご要望にお応えしたいという、全従業員の強い思いから成り立っています。また、このようなエリアを越えた応援体制は地域連携の絆を強くし、使命感を持つ従業員が率先して現場対応に当たるケースが多いことも、後世に引き継ぐべき当社のカルチャーです。

「シャッターでお困りのお客様のお役に立つこと」は不変のあるべき姿であり、災害時に備え、今後もさらに迅速な初動体制の整備を強化していきます。

文化シャッターサービス > お客様サポート > 災害時の対応について

VOICE

文化シャッターサービス

東日本大震災では、被災地における過酷な作業にもかかわらず半年間にわたり全国各地より多数の従業員や協力会社の方々から応援に駆けつけました。2018年8月の台風21号を筆頭に、その他の災害についても同様の対応がしっかりと体質化されつつあります。「被災されたお客様に貢献したい、現地で汗を流す仲間を助けたい」という熱い従業員の思いが、迅速な初動体制を生み出していることは間違いありません。有事の際、現場でお困りのお客様のご要望を伺えるのは「人」に限られますが、今後は情報技術の進化によりできるだけシステム化することで、従業員の負担を軽減しながらも確実にご要望にお応えできる体制を構築したいと考えています。これからもBXグループの社是、経営理念、当社サービス理念「真心と技術」を指針に、奉仕の精神で社会に貢献し続けたいと思います。



文化シャッターサービス 顧問

佐藤 立生

● 被災地復興支援活動

「第4回BXマルシェ東北うまいものフェア」●

東日本大震災発生から8年、震災の記憶が風化しないよう東京でも気軽に参加できる復興支援活動として「BXマルシェ東北うまいものフェア」を実施しています。被災地の産業を支援すると共に、今もなお困難な状況下にある被災地や風評被害に苦しむ農漁業に携わる方々の現状を多くの方に知っていただく機会として、従業員をはじめ、近隣住民や区内在勤者など毎年多くの方にご来場いただいています。

第4回目となるマルシェでは、被災した従業員のご家族が営む果樹園からりんごのブースが来店されました。販売に立つご家族には、多くの来場者から声がかかり、早々に売り切れる程の人気でした。また、被災地支援をきっかけに、いざという時の自助の備えについても関心を持っていただくために、杉田エース(株)様と尾西食品(株)様に社会貢献事業としてご協力いただき、長期保存食の試食・販売ブースを設けまし



会場の様子

た。今後も被災地支援を継続すると共に防災をテーマとした交流の機会を設け、地域との顔の見える関係づくりに努めていきます。

VOICE

BXマルシェ出店

東日本大震災以降、多くの方々よりご支援をいただき、岩手県では災害公営住宅が全て完成、三陸沿岸道路も多くの区間が次々と開通するなど着実に復興が進んでいます。東京本社で開催しているBXマルシェに実家のりんご園を出店することでマルシェの盛り上がりにも貢献できればと考え、岩手県自慢のりんごと共に母と参加しました。マルシェ会場の熱気と賑わいは想像以上で、実家のりんごもお陰様で大変好評でした。震災から8年が経過しますが、来場者皆様のパワーは、今後も復興の後押しとなると感じました。



文化シャッター 東北支店 宮古営業所 所長

日向 寿一



寿果樹園

日向 清一様 (左) 陽子様 (右)

被災地に心を寄せてくださる会社の理念と姿勢に触れ、大変感銘を受けました。息子が身を置く会社から思いがけない機会をいただき嬉しく思っています。東京での出店経験はなく、出店が決まった当初はお客様の反応がとて不安でしたが、試食を召し上がりお買い上げいただくお客様が多く、2回足を運んでくださる方もいて、驚くと同時にとても幸せな気持ちになりました。東京の皆様との触れ合いは、今後のりんごと加工品づくりに大きな自信となりました。良い経験をさせていただき、心から感謝しています。

# 文化活動の支援

● 文化活動を通じた地域への貢献 ●

文化シャッターでは、音楽や伝統芸能などの文化活動を支援する一方、子育て支援など地域課題解決に取り組む団体に協賛し、本社に併設されたBXホールの提供等を通じて地域との交流を図っています。文京区の福祉施設の皆様をご招待しているチャリティコンサートでは、パイオニア(株)様の体感音響システムを無償貸与いただくご協力により、聴覚に障害のある方にも音楽を楽しんでいただいています。

また、2017年度より協賛している「NPO 法人声と未来」は、プロの声優を中心メンバーとした「声で未来をつくる」をモットーに活動する団体で、子育てに悩む方の居場所づくりとして毎週開催している絵本読み聞かせ会を、BXホールでは参加型読み聞かせ会として実施していただいています。文京区の幼稚園、保育園から園児を招待してのイベントでは、演技指導付きのアフレコ体験やステージ劇への飛び入り参加など、趣向を凝らした演出で多くの子どもたちを楽しませてくれました。今後もさまざまな企業、団体様と共に、文化活動を通じた地域との交流を大切にしていきます。



絵本の読み聞かせ × ゴスペル・クリスマスソングの会 (絵本「サンタさんからきたてがみ」 作・たんのゆきこ 絵・垂石真子 福音館書店)

from STAKEHOLDER

愛河 里花子 様

「NPO 法人声と未来」は、声優や歌手など声の表現者たちによる読み聞かせを中心に、子育て支援をする団体です。絵本の読み聞かせが、子どもたちの豊かな感性を育てるだけでなく、親子の絆を深めるきっかけとなることを願い、週に一度事務所のスペースを利用して読み聞かせ会を開催しています。BXホールのような大きな会場では、ステージやスクリーンを使ったさまざまな演出が可能で、より多くの子どもたちに声で表現することの喜びや達成感を感じてもらうことができます。また子どもたちだけではなく、実際の仕事現場に近いアフレコの様子を見ていただくことで将来の夢を育む機会になればという思いから、声優をめざす専門学校の学生も招待しています。今後も声の持つ大きな力で「声で未来をつくる」活動の幅を広げていきたいと思っています。



特定非営利活動法人 声と未来 理事長 声優

特定非営利活動法人声と未来 <http://www.koe-to-mirai.net/>

# BXグループのエリア活動

## ハイライト

### 文化シャッターサービス

#### ● 福祉施設を多面的に支援 ●

文化シャッターサービスでは、さまざまな活動を通じて障害者の就労支援を行う福祉施設を支援しています。心身にハンディキャップがある



ノベルティ

方々が心を込めて作られた商品を積極的に購入し、当社のノベルティとする活動は長年継続しており、お客様からはご賛同のお言葉や、同じく導入を検討したいとお声をいただき、さらなる支援の広がりを感じています。

また千葉エリアでは、毎年8月に実施される「ウルトラ運動会」の運営に従業員有志がボランティアとして参加しています。「ウルトラ運動会」は千葉県内にある社会福祉施設の利用者約400名が参加する大運動会で、当社のほか企業や、県内の高校生がボランティアとして参加しています。当社は、参加者が安全にスポーツを楽しめるよう、設営や受付などのお手伝いをしています。「パン食い競争」は特に盛り上がり、多くの笑顔に触れることができます。今後もこの活動を継続していきたいと考えています。



ウルトラ運動会

#### from STAKEHOLDER

山田 善一 様

「ウルトラ運動会」は、千葉県内の5～6市町村を主体とした社会福祉施設の利用者のための運動会で、これまで27回開催しています。嬉しいことに年々参加者が増え、今回は県内36施設の利用者が参加、運営ボランティアの方を含めると850名が参加する一大イベントとなりました。文化シャッターサービスの皆様には、6年程前より継続してお手伝いいただいております。開催前日の会場設営から当日の受付業務、昼食の仕分け、撤収作業など、運営を支えるボランティアとしてご協力いただいております。このような大きなイベントに発展したのも、貴社をはじめとする運営ボランティアの皆様のお力添えのおかげと感謝申し上げますと共に、今後も継続してご協力いただきたいと思います。

社会福祉法人ついで障害福祉サービス事業所  
あやめ 施設長  
(写真は施設外観)



#### ● 人命救助を想定した消防訓練に協力 ●

文化シャッターサービスでは、全国各地の消防学校や消防本部で実施される災害時の人命救助活動を想定した消防訓練において、シャッター破壊指導を通じて協力しています。一刻を争う人命救助活動では、的確で正確な切断作業が求められ、また救助を行う消防隊員の安全を確保するためにも、本番を想定した本格的な訓練が必要となります。2018年度は全国各地の消防学校21校で訓練を実施、新たに破壊訓練の導入に協力要請をいただく学校も年々増えており、まさに本業を通じた貢献活動となっています。

破壊訓練ではエンジンカッター等を使用して実際にシャッターのスラットを切断、一秒でも早く要救助者の元へ駆けつける訓練をします。簡単に切断できると思っていた消防隊員も多く、「切断作業を体験できるのは本当に貴重な機会」といった感想をいただいています。消防学校の教官からは「シャッターの切断は経験をしていないと時間がかかる。実習できる機会は貴重であり、ご協力はありがたい」とのお言葉をいただいています。

防火、防災の機能を持つシャッターですが、災害時に人命救助の妨げにならないよう、今後も消防学校等での訓練に協力することで、迅速な救助活動に貢献したいと考えています。



消防破壊訓練の様子

#### from STAKEHOLDER

萩原 建夫 様

群馬県消防学校での消防破壊訓練はこれまで3回実施しており、専科教育の救助科に入学した約100名の消防職員が体験しました。火災は時間との闘いであり、鎮火までに極大時間をかけない消防活動が求められるため、さまざまな知識や体験を積み重ねることが重要です。体験して学ぶ消防破壊訓練は重要な機会であり、実際にシャッターを切断できる貴重な経験ですので、頭に入る知識だけでなく、「実践したという自信」を隊員に持たせることができます。消防職員からも「もっと経験したい」という声が多く挙がり、ひとりでも多くの消防職員が体験できるように、今後も継続していただきたいと思います。



群馬県消防学校  
副主幹

#### ● 地域の子ども食堂へ寄付 ●

BXカネシン

BXカネシンは、バレンタイン・ホワイトデーの恒例行事について形骸化を理由に廃止を検討していたところ、「共に働く仲間への日頃の感謝の気持ちを、募金という形で地域貢献活動に代えられないだろうか」との発案があり、バレンタイン・ホワイトデー・チャリティ募金を実施しました。

社内の親睦会が中心となって1口500円のチャリティ募金を呼びかけたところ、多くの従業員が賛同、感謝の気持ちが形となりました。寄付金は、子ども食堂で提供される食事や運営費用の一部として活用していただきました。子ども食堂といっても、「あおとこども食堂」のように月1回の開催もあれば



あおとこども食堂

毎日開かれているところもあるなど、地域や子どもたちとの関わり方はさまざまであることを教えていただきました。今後も地域の方への感謝を忘れず、社会に貢献できる企業をめざします。

#### from STAKEHOLDER

緒方 美穂子 様

私たちNPO法人レインボーリボンが葛飾区で子ども食堂の運営を始めて4年目を迎えました。子どもの笑顔に出会える一方、「朝から何も食べていない」といった子どもたちのつぶやきも聞いてきました。葛飾区では現在、11ヶ所の子ども食堂があり、困難を抱える親子だけではなく、地域の小中学生や子どもとのふれあいに生き甲斐を感じている高齢者の方々など、多様な人びとの居場所ともなっています。昨年、葛飾区で子ども食堂や子どもの居場所を開設・運営している団体や個人のネットワーク「かつしか子ども食堂・居場所づくりネットワーク」が立ち上がり、情報の共有と包括的な支援に向け活動を開始しました。ネットワーク設立後初となる企業からのご寄付が、今回のBXカネシンでした。誠にありがとうございました。



特定非営利活動法人  
レインボーリボン  
かつしか子ども食堂・  
居場所づくりネットワーク  
代表 (左)

#### ● ベトナムからの実習生受け入れ ●

BX新生精機

BX新生精機では、厚生労働省の推進する「外国人技能実習制度」に基づき、開発途上国等の経済発展を担う「人づくり」に貢献するため、ベトナム出身の実習生を受け入れています。実習生は、制御盤組立や検査など、さまざまな作業に懸命に



制御盤組立作業をする実習生

取り組み、「3年間で得た経験、知識を活かして帰国後も頑張りたい」と向上心を持って励んでいます。今後も外国人実習生を積極的に受け入れ、人材育成を通じて国際社会の発展に貢献していきます。

#### ● とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業 ● BX朝日建材

徳島県では過疎化、高齢化により、これまで地域を支えてきた農山漁業の生産者や伝統文化継承の担い手不足が深刻化しています。BX朝日建材は、2014年より徳島県が主催する「とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業」の協働パートナーとして従業員を派遣し、地域創成に意欲的な「ふるさと団体」と共に、地域の活性化に取り組んでいます。世界農業遺産に認定されている「にし阿波の傾斜地農耕システム」で育てられたはっさくやそばの収穫作業など、農作業支援を中心に活動しており、これまでに30回の協働活動を実施、のべ125名の従業員が参加してきました。従業員からは「初めて経験することに対して、前向きに行動できるようになった」などの声があがり、自身の行動変容にもつながっているようです。2018年にはこれまでの実績が認められ、徳島県知事より感謝状を授与されました。今後も地域に根ざした活動を通じて、積極的に課題解決に貢献していきます。



感謝状贈呈式の様子

#### from STAKEHOLDER

藤村 大輝 様

徳島県の約8割の面積を占める「中山間」と呼ばれる農山漁村地域は、水源のかん養、自然環境保全などの重要な役割を果たす一方で、多くの農山漁村が、過疎化・高齢化による農作業の人手不足が深刻化し、耕作放棄地の増加などの問題に直面しています。徳島県では2010年より、企業等(協働パートナー)と応援を求むる農山漁村地域の団体(ふるさと団体)がお互いの資源を活かし合うことで地域活性化をめざす「とくしま農山漁村(ふるさと)応援し隊事業」を推進しています。BX朝日建材には、2014年より多くの従業員の皆様が農産物の収穫や耕作放棄地の除草などに参加いただき、ふるさと団体からは「人手が足りず困っていたので、大変助かっています」といった声をいただいております。今後も当事業へのご協力を願っています。



徳島県農林水産部  
農林水産基盤整備局  
農山漁村振興課  
農村環境担当 主任主事

# 地球と共に

BXグループでは地球規模で深刻化する環境問題に対し、CSR憲章「地球と共に」に基づき、事業活動とお客様に提供する商品やサービスを通じた環境保全に取り組んでいます。  
2018年度は、新たにBX朝日建材がゼロエミッションを達成。2019年度もさらなるゼロエミッションの展開をめざします。その他、設定した重点課題に全社一丸となり取り組みます。



- 1 掛川工場メガソーラー発電所
- 2 移動式デザインオーニング「パルセル」
- 3 「テクモク」保育園施工事例
- 4 「こどもエコクラブ全国フェスティバル2019」ブースの様子



## 2018年度の主な取り組みと評価 (○ 目標達成 △ 要改善)

- 環境負荷を軽減した企業経営**
- 環境マネジメント ○
  - グループ全体で環境負荷軽減活動を推進 ○
  - ゼロエミッションへの挑戦 ○
- 環境配慮技術・商品開発**
- オーニングソリューションによる快適空間の実現 ○
  - 100%リサイクル建材 「木材・プラスチック再生複合材」の普及 ○
- 自主的な環境保全活動**
- こどもエコクラブの活動をパートナー企業として支援 ○

## 重点課題(マテリアリティ) 貢献するSDGs目標

**E (環境)**

- 消費エネルギーの削減
- 環境配慮ソリューションの開発・提供
- 調達ガイドラインの推進
- 廃棄物削減およびゼロエミッションのグループ展開



# 環境負荷を軽減した企業経営

## BXグループの環境方針

**環境理念** 人・社会・環境にやさしい商品づくりに積極的に取り組み、「快適環境のソリューショングループ」として健全で豊かな社会の実現に貢献します。

- 行動指針**
- 省エネやリサイクル活動を積極的に推進します。
  - 環境関連法規制及びその他関連事項を遵守し、環境汚染の予防と継続的な改善に努めます。
  - 環境保護・改善に寄与する製商品の開発・設計、及び資材の購入に努めます。
  - 製造～販売～物流～施工及びアフターサービスの各段階でもたらされる環境負荷の低減に努めます。
  - 社員一人ひとりが環境への意識向上を図るとともに、企業市民として環境保護活動を推進します。

## ● 環境マネジメント ●

BXグループでは、環境方針を軸にエコアクション21を基盤とした独自の環境経営システム(EMS)を構築しています。環境関連法規制の遵守徹底はもとより、環境マネジメント体制とコミュニケーションの強化を図り、グループ全体で環境負荷の低減に取り組んでいます。各工場には環境管理担当者を設置、省エネルギーやゼロエミッションの継続およびグループへの展開を推進すると共に、定期的に情報交換の機会を設け、継続的な改善を図っています。

文化シャッター小山工場、BX新生精機、BXテンパル埼玉工場では環境マネジメントの国際規格ISO14001を取得、経済産業省資源エネルギー庁が推進する省エネルギー対策では、事業者クラス分け評価制度(SABC評価制度)において継続してSクラス(省エネが優良な事業者)に認定されています。

## グループ全体で環境負荷軽減活動を推進

BXグループでは、従業員一人ひとりの環境意識向上と、地球環境に関する知識の平準化を図るため、e-ラーニング等を利用し、全従業員を対象とした環境教育を実施しています。

また、各事業所・工場においてエネルギー使用の合理化および電気需要の平準化を推進、特に文化シャッターは省エネルギー法で定める「特定事業者」に指定されており、全工場においてエネルギー原単位の削減のほか、廃棄物の3Rによるゼロエミッションを継続すると共に、省エネ効果の高い生産設備や照明設備の導入、電力デマンド管理によるエネルギー使用量の平準化を図っています。また、秋田工場をモデルとした「消費エネルギーの見える化計画」を実施し、蓄積したノウハウを他工場に展開することでエネルギーの効率的な利用を図り、CO<sub>2</sub>排出削減に取り組んでいます。

2018年度は、電気使用原単位11.7%の削減およびガソリン使用原単位33.3%の削減、廃棄物についてはグループ全体で廃棄物の分別、リサイクルを推進し、総排出量を45.9%削減(2007年度比)しました。当社グループでは今後も自社保有資産の効率化と、エネルギーの省力化にグループ全体で取り組んでいきます。

→参照 P8 財務・非財務ハイライト ESGデータ

## ● ゼロエミッションへの挑戦 ●

BXグループでは、文化シャッター7工場(千歳、秋田、小山、掛川、姫路、御着、福岡)全てにおいてゼロエミッションを達成し、継続しています。またグループ会社においてもBXティアール埼玉工場、BX新生精機、BX鐵矢、BX文化パネル播磨工場においてゼロエミッションを達成、2018年度には新たにBX朝日建材が達成しています。今後も引き続き活動を展開し、ゼロエミッションの継続と達成に向けた取り組みを推進していきます。

## ● BXカネシン エコアクション21への取り組み ●

BXカネシンでは、環境省が主導する「エコアクション21」に積極的に取り組み、認証登録後2年ごとの更新審査を経て、2016年度には10年継続取得事業者としてエコアクション21中央事務局より表彰を受けました。環境に関わる法令、条例、協定の遵守はもとより、独自の環境マネジメントシステムを構築、廃棄物の分別によるリサイクル化の推進や廃棄物の削減に努めると共に、エネルギーと水資源の節約によりCO<sub>2</sub>総排出量の削減を図っています。また、省資源型製品および環境に配慮した表面処理製品の開発・販売を推進するほか、森林保全や森林経営の健全化の観点から国産木材の活用を促す技術・構法を積極的に開発するなど、生物多様性の保全・維持にも注力しています。



エコアクション21 10年継続表彰受賞

# 環境配慮技術・商品開発

## ハイライト

### BXテンパル

#### ● オーニングソリューションによる快適空間の実現 ●

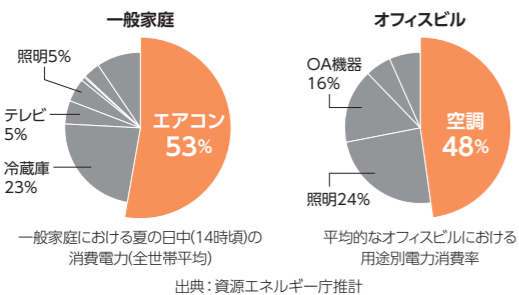
日射しを適度に調節して心地よい風を取り入れ、屋外と屋内に新しい快適空間を創出するオーニング(Awning)。開閉操作により強い日射しを遮り、室内および体感温度の上昇が抑えられ、節電や暑熱対策にもつながることが注目されています。

BXテンパルは「オーニングのリーディングカンパニー」として、店舗、商業施設、公共施設、住宅などの空間に合わせた多種多様なオーニング製品を提供し、人や地球に優しい社会づくりに貢献しています。



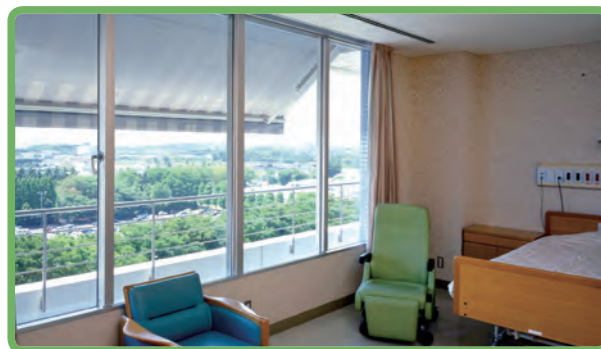
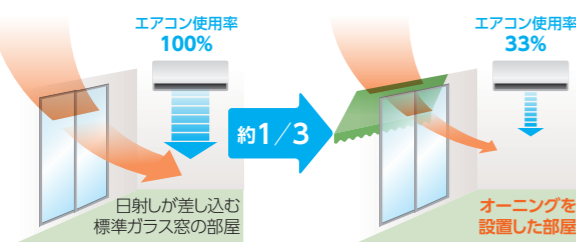
#### エアコン・空調の節電で高い省エネ効果

課題 一年で最も電力を消費する夏  
エアコン・空調が消費電力量の約5割を占める



#### オーニングの効果

室内への日射しを大幅にカット  
エアコン使用率は約1/3となり節電を実現



人や地球に優しい快適空間を実現

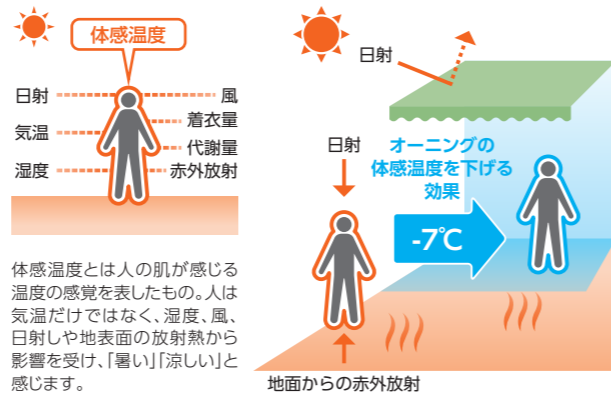
#### 暑熱対策に有効な方法として期待

課題 記録的な高温(猛暑)に襲われた2018年夏  
熱中症により救急搬送された人は  
日本全国で約9万5千人(5月~9月累計)  
埼玉県熊谷市で歴代最高気温 41.1℃を記録  
出典:総務省消防庁推計

#### オーニングの効果

体感温度を約7℃下げる

「日陰」も「日向」も気温は同じ  
日陰が涼しいと感じるのは体感温度が違うから



木陰のような、心地よい日陰を創り出す

#### ● 100%リサイクル建材

##### 「木材・プラスチック再生複合材」の普及 ●

木材は古来よりあたたかい風合いと強度の高さから多くの市場で愛用されてきました。天然の素材であることから成形への多様性が低く、腐食するなどの短所がありましたが、技術の進歩により、成形性や生産性、品質の均一さに長けたプラスチックの特性を活かし、リサイクル木材と廃棄されたプラスチック等を主原料とした「木材・プラスチック再生複合材」(WPRC)が誕生しました。このWPRCは、使用後に繰り返し原料とする多回リサイクルが可能で、腐食やささくれなどが少なく、安心して使用できます。また押出成形することで用途に合わせたさまざまな形状を安定して製造できることから、環境をキーワードに公共事業などに多く採用されるようになりました。

文化シャッターでは(株)エコウッドと協働し、2007年に「テクモク」をリリース。環境配慮製品としてバルコニーやデッキ等への採用をご提案することで積極的にWPRC普及に貢献してきました。2018年にはグリーン購入法に基づく「環境物品等の調達に関する基本方針」において「木材・プラスチック再生複合材製品」が特定調達品目として指



テクモクの施工例  
養護老人保健施設 葵の園・八千代(茨城県)

定され、今後の製品展開やさらなる技術開発が期待されます。持続可能な資源循環型社会の実現に向け、今後もグループシナジーで環境配慮製品の拡充に努めます。

#### from STAKEHOLDER

奥田 慶一郎 様



一般社団法人  
日本建材・住宅設備  
産業協会  
専務理事

政府主導の「society5.0」の実現と国の方針を踏まえた住宅・建材分野における重点課題の一つとして、当団体では日本規格協会を通じた経済産業省からの受託事業である標準化事業を推進しています。特に「グリーン建材・設備製品に関する国際標準化事業」において、日本提案から3年間の活動を経て、2018年3月に木材・プラスチック再生複合材(以下WPRC)の定義、安全性などを規定したISO20819(木材・プラスチック再生複合材・環境仕様)発行に貢献しました。さらに同国際標準化事業の中で、日本の優れたグリーン建材を国際的に普及させるため、新たな提案、規格化に取り組んでいます。

一方、国内でのグリーン建材普及には、当団体のWPRC部会の積極的な働きかけにより、2018年4月にグリーン購入法に基づく「環境物品等の調達に関する基本方針」において、特定調達品目に指定され、公共物件における普及促進が期待されます。

一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会  
木材・プラスチック再生複合材普及部会(WPRC) <https://wprc.info/>

# 自主的な環境保全活動

#### ● こどもエコクラブの活動をパートナー企業として支援 ●

文化シャッターでは、公益財団法人日本環境協会が主催する「こどもエコクラブ」の活動に賛同し、2013年よりパートナー企業として支援しています。子どもたちが1年間のエコ活動を壁新聞や絵日記をもとに紹介し合い、全国の仲間たちと共に学び交流する「こどもエコクラブ全国フェスティバル」には、継続して当社環境配慮製品テクモクを「見て・触って・体感できる」ブースを出展しています。

2019年3月に実施された全国フェスティバルには、全国から450名の子どもたちが参加しました。当社ブースでテクモクの製造過程である木粉やペレット、原料となる粉砕されたプラスチックに触れた子どもたちからはさまざまな質問が寄せられ、環境に対する関心の高さと熱心さを感じました。未来を担う子どもたちが、自ら進んで環境問題に対して取り組む「こどもエコクラブ」の活動を、今後も継続して支援していきます。



「こどもエコクラブ全国フェスティバル2019」集合写真

#### from STAKEHOLDER

大西 亮真 様



公益財団法人  
日本環境協会  
こどもエコクラブ  
全国事務局長

「こどもエコクラブ」は、3歳から高校生までどなたでも参加できる環境活動のクラブです。環境について子どもたち自身が考え、生き物調査や清掃活動などのさまざまな取り組みを地域の中で実践しています。全国フェスティバルは、都道府県の代表が集まって活動発表や交流を行うこどもエコクラブのメインイベントで、文化シャッターには2014年度からブースを出展いただいています。テクモクなどの先進的な環境技術や取り組みに直接触れることは、子どもたちにとってよい学びになるとともに、自身の活動の継続・発展に向け意欲を高める機会にもなっています。こどもエコクラブではこれからも、持続可能な社会の主役となる子どもたちの育成に取り組んでまいります。

こどもエコクラブ 公式サイト <http://www.j-ecoclub.jp/>



# 働く仲間と共に

「自ら手を挙げチャレンジする」という組織風土を醸成させるためさまざまな取り組みを実施しています。また多様化する従業員のライフスタイルに応じ、一人ひとりが能力を発揮できる「働き方の革新」を推進していきます。



- 1 海外派遣制度の参加者と現地スタッフ (ベトナムにて)
- 2 チームインベーションキャンプの様子
- 3 育児休業制度を利用した北山主任とご家族
- 4 イノベーター育成事業「起業塾」成果発表会の様子



# 人権の尊重

## ● 基本的な考え方 ●

文化シャッターでは、グループ全従業員が共有すべき人権に対する価値観や行動の指針をCSR憲章「働く仲間と共に」で定める行動指針に掲げ、誰もが差別を受けることなく、個人の能力を発揮できるよう支援を行うと共に、従業員の多様性を尊重し、個性を活かし活躍できる職場づくりを推進しています。

差別やハラスメントについて正しい知識を身につけ、働く仲間を尊重しあう風土づくりをめざし、人権やハラスメントをテーマとしたe-ラーニング教育をグループ全従業員を対象に実施しています。

## ● 多様な働き方を支援 ●

文化シャッターでは、従業員のライフスタイルが多様化する中、個々の事情に合わせた働き方ができるよう、さまざまな両立支援を実施しています。

## 育児休業制度

子どもが3歳に達するまで育児休業を取得できます。また、6歳までだった短時間勤務を小学校3年生までに延長し、働きながら育児をする従業員を支援すると共に、男性の育児休業取得についても積極的に推進しています。2018年度の育児休業制度の利用者は20名で、そのうち2名が男性でした。

## 介護休業制度

従業員の家族が要介護の状態にある、または特定疾患に罹病した場合、積み立てた休暇の中から有給休暇として取得できる積立休暇制度を採用しています。また要介護状態にある家族を介護する従業員については、所定労働時間外の労働免除のほか、短時間勤務を利用できる体制も整えています。

## ● 従業員の健康のための取り組み ●

文化シャッターでは、「人財」である従業員がいきいきと活躍するためには、基盤となる健康が第一であると考え、心と身体の両面からサポートする体制を整え、取り組みを進めています。

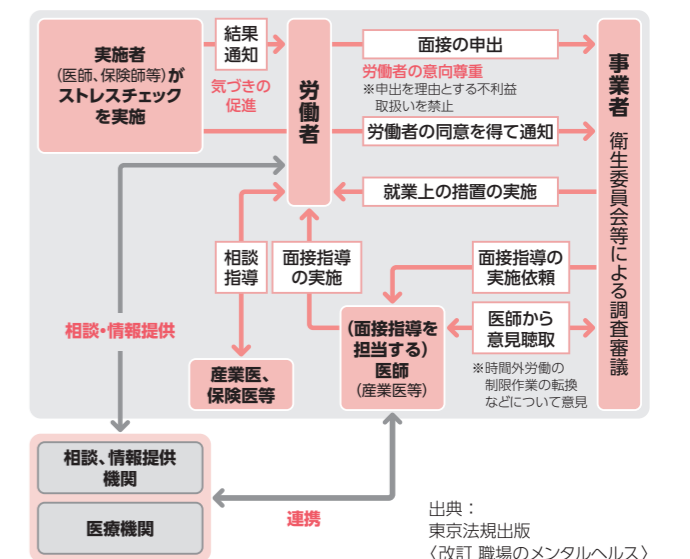
## 身体への健康へのサポート

労働安全衛生法に基づく定期健康診断と再検査の受診を徹底し、100%の受診率を達成しています。また従業員の生活習慣に関するアンケートを実施し、自社の平均値と一般的な平均値を比較しながらヘルスリテラシーの向上をめざすe-ラーニングを開発するなど、従業員の生活改善や健康維持を支援しています。

## 心の健康へのサポート

従業員が自らのストレス状態について把握し、メンタルヘルス不調を未然に防止できるよう、ストレスチェック制度を導入しています。自らの心の健康状態を確認できるだけでなく、メンタルヘルスの基礎知識やセルフケアの方法をはじめ、ストレスを感じにくい思考に切り替えるメンタルタフネスの学習など、メンタルヘルスに関するさまざまな情報を取得できるほか、チェック結果により医師の面談を希望できるなど、従業員の心の健康を多方面からサポートしています。2018年10月に実施したストレスチェックでは、正社員、嘱託、契約社員、パートタイマーを含む1,563名(受検率59.6%)が受検しました。

## ストレスチェック制度の仕組み



## VOICE

## 育児休業制度利用



育児休業取得中は育児のほか、引越しやお宮参りなどの行事に追われ、慌ただしい日々でした。子育てについてはわからないことばかりでしたが、共に過ごさなければ知り得なかった家族の苦勞も多く、少しずつ親として、夫としての成長を感じることができました。児童館や図書館の平日プログラムにも家族で参加できましたし、なにより日々子どもの成長を肌で感じるかけがいの時間となりました。上司、職場関係者には全面的にサポートしていただき感謝しています。

文化シャッター  
ドア・パーティション事業本部  
マンションドア部 主任  
北山 英樹

## 2018年度の主な取り組みと評価 (○ 目標達成 △ 要改善)

- 人権の尊重** ○
  - 多様な働き方を支援
  - 従業員の健康のための取り組み
- 雇用の創出** △
  - 障害者雇用と定年後再雇用制度について
- 満足度の向上** ○
  - 働き方の革新
  - 人材育成・研修制度
  - イノベーター育成事業「起業塾」の開講
  - 人事制度・キャリア開発の取り組み

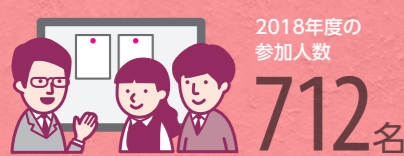
## 重点課題(マテリアリティ)

## 貢献するSDGs目標

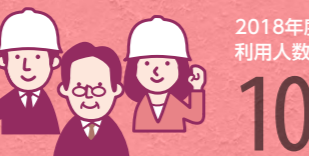
**S(社会)**

- 人権デューデリジェンスおよびダイバーシティの推進
- 人財集団形成のための教育
- 従業員の健康促進
- 女性の活躍推進
- 働き方の革新

## BXグループ人材力向上のための研修



## グループ内インターンシップ



## ストレスチェック

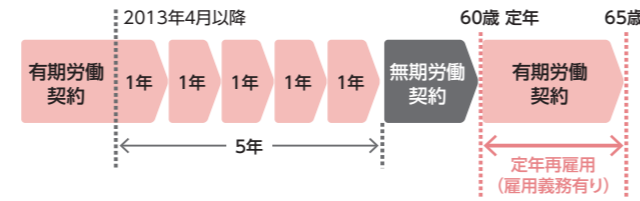


# 雇用の創出

## ● 障害者雇用と定年後再雇用制度について ●

文化シャッターでは、障害者の雇用率が2019年3月時点で1.95%となり、民間企業法定雇用率の2.2%を達成することができませんでした。地域の一員である企業として、「共生社会の実現」に向け、今後も雇用促進に取り組んでいきます。また、定年後再雇用制度については、本人の希望に応じ、65歳まで継続して働くことができ、長年培った能力を定年前と同様に活かしながら、その経験を後進の育成に役立てるなど、他世代交流の活性化にもつながっています。2018年度の定年後再雇用実績は41名でした。

正社員と同様に60歳を定年とし、再雇用を申請した場合は、65歳(誕生日の翌日)まで継続して働くことができますようになりました。



## ● 人材育成・研修制度 ●

文化シャッターでは、「企業の価値は従業員一人ひとりの人財力の総和である」を理念とし、問題解決能力やイノベーション力などの総合的な人材力向上を支援するための研修制度の構築を図っています。

〈BXグループのめざす人材像〉

「自ら考え、自ら進んで行動できる人」  
 「皆で協力し、チーム力を発揮できる人」  
 「“見る”力を持ち、問題を発見、解決できる人」

身につけるべき5つの力 = 「BXグループの人材力」

1 全体最適の視点でイノベーションを起こす力	イノベーション研修プログラム 幹部候補生に求める組織を最適に機能させるための総合力や、既存概念にとらわれない起業家精神、イノベーション力の育成
2 “見る”力を駆使し、問題を発見、構造化し、課題達成する力	問題解決研修プログラム 問題の全体像の把握や発生の予測、問題を特定し原因を掘り下げる論理的思考や周囲を巻き込む実行力など、問題解決力の育成
3 職場の日常活動を見直し、常にレベルアップを図り改善する力	改善研修プログラム 方針実現・目標達成に向けた現状分析により因果関係を究明し、業務改善策を見出す力の育成
4 常に明るく、やる気に溢れた職場へと導く力	部下指導・コミュニケーション研修プログラム リーダー・評定者としての部下指導のあり方についての学習や職場コミュニケーションの活性化を主導する力の育成
5 職位・職能資格に必要な要件を十分に満たす能力	階層別プログラム 新入社員研修・職能資格昇格者研修・新任所課長研修・中途入社者研修などの階層別のほか、マネジメント研修などステージごとに必要とされる能力を習得

これらの学習の機会を通じ、従業員の仕事に対する満足度と幸福度の向上をめざしています。一人ひとりが「人財」となることで、社会への価値提供領域が拡大し、レジリエントな企業体の構築につながることを期待しています。

# 満足度の向上

## ● 働き方の革新 ●

文化シャッターでは「働き方の革新」を経営方針に掲げ、職場の生産性向上をめざし、国が主導する長時間労働是正の実現に向け、グループ全体で取り組みを進めています。

## 労働時間の「見える化」「コスト化」と労務管理の徹底

パソコンのON・OFFを自動取得するデータ管理と、一人ひとりが実際の始業・終業時間を入力する新システムの導入により勤務実態の明確化を図っています。労務状況を「見える化」することにより、労働時間=コストであることを意識させることで、労務管理を徹底しています。

## 20時退社の実現

36協定ならびに特別条項の見直しや、PCを20時にシャットダウンすることで退社を促すなど、時間外労働の削減を推進しています。またお客様に対しても、当社グループの「働き方」についてご理解をいただく取り組みを推進しています。

## 有給休暇取得の推進

「働き方改革関連法案」の施行を受け、年間5日の年次有給休暇の計画的付与制度を導入しています。年次有給休暇の取得促進により、さらなる仕事と生活の調和を推進しています。

## 無期労働契約への転換

2018年4月より、パート、嘱託(正社員の定年後再雇用嘱託は除く)、契約社員等の雇用形態を、有期労働契約から無期労働契約に順次転換しています。法令では、通算契約期間が5年を超えると無期契約への転換する権利が発生し、申請に基づいて次の契約から無期契約に転換できますが、当社では、通算契約期間が5年を超える契約から順次、無期労働契約としています(本人からの申込みは不要)。また、無期労働契約者は

## ● イノベーター育成事業「起業塾」の開講 ●

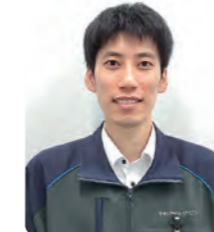
イノベーター育成事業の一貫である「起業塾」は、BXグループの未来を担う45歳以下の従業員が、新事業・新システムの創出をめざし、1年間にわたり実施される研修プログラムです。事業プロジェクトを進める上で必要なマーケティング力やビジネスプラン構築力の養成のほか、「社会に新たな価値を提供し、対価を得る芽を育む」をテーマに事業アイデアの検証・分析に取り組み、最終目標の経営幹部への事業提案に向け、2018年度はグループ会社を含む14名が参加しました。

提案プロジェクトは事業化へ向けて取り組みが始まっており、彼らのイノベーターとしての活躍が期待されます。先人達による、既存のビジネスモデルにとらわれない「新しい価値」への果敢なチャレンジが、今の「快適環境ソリューショングループ」としてのBXグループを築いてきました。創業当初から受け継いできた「経験を問わず、挑戦する意欲を支援する」という企業文化を継承し、今後モイノベーターの育成と支援に取り組んでいきます。

## VOICE

起業塾受講

起業塾のメンバーは立候補して参加しており、主体性が高く、積極的に刺激を受けました。職位や職種の異なる皆さんから、思いも寄らぬ発想や視点からの意見を聞くことができ、とても貴重な経験となりました。繰り返し議論を重ねたテーマが形になった時にメンバーと共有した達成感、普段は味わうことができない喜びでした。この経験を糧に、今後ますます変化する市場環境において、新たな視点で社会に価値を生み出し続けるイノベーターになれるよう努力していきます。大きな目標に向い一丸となって取り組んだメンバーとの出会いを大切に、いいライバルとして切磋琢磨し続けたいと思います。



文化シャッターサービス品質統括部 技術教育部 係長 栗原 淳

## ● 人事制度・キャリア開発の取り組み ●

文化シャッターでは、自立的なキャリア形成を支援し、高いモチベーションを保ちながら豊かな発想で仕事に臨むための人事制度の拡充を図っています。

## グループ内インターンシップ制度

グループ会社を含め、希望部門で仕事経験を積むための体験ができるインターンシップ制度を、BXグループ全従業員を対象に2013年度より導入しています。2018年度は13名が参加しました。他部門の仕事を体験することで自らの視野が広がるほか、人的ネットワーク構築により「困った時、お互いが助け合う」という協力体制が生まれるなど、従業員が今後のワークスタイルについて考える社内キャリア開発にもつながっています。

## 海外派遣制度

文化シャッターでは、グローバルな人材の育成をめざし2013年度より「海外派遣制度」を実施しています。BX BUNKA VIETNAMと文化シャッター両社による「交換留学研修」として、文化や働き方が異なる相手国において職種に応じた経験を積み、新たな気づきや現地の従業員との課題の共有を通じて、相互に成長することをめざしています。2018年度はBX BUNKA VIETNAMと文化シャッターからそれぞれ3名が参加しました。2~3か月に及び滞在期間の中で、言葉の壁を越え、積極的にコミュニケーションを図ることで得た知識・経験が、自国でのモチベーション向上につながることを期待しています。



研修生による日本語勉強会の様子

## VOICE

海外派遣制度利用

ベトナムスタッフと一緒にさまざまな課題やイベントに取り組んだ約2か月半の研修はあっという間でした。文化や環境の違いに戸惑うこともありましたが、先入観や固定観念にとらわれず、異なる価値観を受け入れることで視野も広がり、柔軟に考えられるようになったと感じています。ベトナムで得た一番の成果は、周りを巻き込みながら仕事を進めていくことの重要性を学んだことです。あらゆる環境が異なる海外では、一人で考え行動しても、なかなか課題が進まず苦しみました。現地スタッフの輪の中に積極的に入ることで言葉の壁を乗り越え、内容を伝えるだけでなく自分の思いまで理解してもらうことが課題解決につながりました。困難な状況の中、仲間と共有した達成感や自信となり、日々の仕事や生活のモチベーション向上にもつながっています。



文化シャッター 御着工場 生産管理係 主任 山脇 茂生

## 自己申告制度の実施

文化シャッターでは、現在の仕事の量や質、働き方の希望や適正など、自らのキャリアプランに応じた働き方について申告する「自己申告制度」を年に一度実施してしており、従業員のキャリアプラン実現に向けたチャレンジを支援しています。会社は本人の希望や状況を理解することで、活躍の場の検討や育成に活用しています。





文化シヤッター株式会社

〒113-8535 東京都文京区西片一丁目17番3号  
<http://www.bunka-s.co.jp/>

お問い合わせ先

CSR統括部

TEL.03-5844-7330

FAX.03-5844-7331

